

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171500040		
法人名	社会福祉法人萱垣会		
事業所名	中津川市グループホームまごころ		
所在地	岐阜県中津川市神坂3835-204		
自己評価作成日	平成24年8月1日	評価結果市町村受理日	平成24年10月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JiyosyoCd=2171500040-008PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成24年8月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>今年度も3つの行動指針と、実現に向けての10の行動目標をスタッフ全員で掲げました。すべてが完璧ではないが、スタッフ一人一人の心の中に刻まれつつあるところ。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人設立時からの理念「照千一偶」を受け継ぎ、その伝統の上に行動指針を定め、高齢者の生活を支えている。利用者が、限りある人生を安心して穏かに過ごせるように、家族・地域の人間・職員と共に、地域の中で生きる喜びを共有しながら楽しい生活を支援している。管理者・職員の行動目標は「笑顔と安心、ゆとりのまごころ」と定め、利用者に寄り添い、その人らしい暮らしを支えている。さらに、地域との交流を深め、互に支え合い、提供するサービスの質を高めながら、常に新しい価値の創造を目指している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者本位の暮らしの支援を職員は大切に実践している。そして、法人の理念はもとより、まごころ独自の理念もうたい、大切に実践している。	理念は、住み慣れた地域で「寄り添い見守り共に暮らす」を掲げている。実践の具体的な方法は行動計画にまとめている。日々のミーティングの中で確認し、利用者に寄り添い、自分らしい暮らしができるように支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアとして、草刈りや畑仕事等をして下さる。事業所自体が地域の一員となって、地元の盆踊り等にも参加している。	花火大会・盆踊り・公民館の作品展・祭り等では、地域の一員として企画の段階から参加し、地域とは深い信頼関係が出来きている。ホーム周囲の草刈り・畑仕事・話し相手等の支援を受けている。事業所だけでなく、利用者家族の人達とも顔馴染みの関係が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方に行事等の際はご協力を頂き、認知症の方と関わる中で随時説明をし、ご理解・ご支援の方法をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所、消防署員をはじめ、ご家族や地域関係者に参加していただき、その間の事業説明及び報告を行っている。昨年度の満足度調査を行い、報告会も行っている。	2ヶ月に1回定期に開催し、家族・老人クラブ会長・地区のボランティアの代表者・民生委員・行政・消防職員が参加している。事業報告や満足度調査に対する意見を交換している。それらの意見等を、サービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設の設置主体が市であり、日頃から連絡を密にしている。昨年度はスプリンクラーの設置工事が行われそれに関わる市との連絡、お互いの行き来等も入念に行った。又、相談員が2カ月に1度訪問して下さり、意見交換を行い以後のサービス向上に繋げている。	建物の維持管理について、市の担当者と連絡を取っている。市の介護相談員が定期的に訪問し、改善点を話し合い、サービスの質の向上に活かしている。運営上の課題は、随時相談できる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会に於いて、拘束に繋がる介護になっていないか検討している。また、委員会担当者が勉強会にも参加し、身体拘束をしないケアに日々努めている	法人内に身体拘束ゼロ委員会があり、職員の勉強会を通じて、身体拘束をしないケアの具体的な対応策を周知、徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会や研修会に参加したり、事業所内でも委員会を設け、積極的に虐待防止に努めている。		

岐阜県 中津川市グループホームまごころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について研修をうけている、個々のケースについて確認している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、利用者や家族の方に十分な説明をし、質問等を受けながら、理解や納得が得られる様にしている。一つの事例では、受付の段階から等施設を理解して頂いた事により、他施設入所後、当施設へ異動されるケースもあった。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見を聞く、サービス評価事業を行うと共に、それを運営推進会議等で公表し、意見交換の機会を設けている。月1回の茶話会を開催し、利用者の意見、ご意向を伺い、事業に反映している。	毎月利用者中心の茶話会を開催し、意見や要望を聞く機会を設けている。家族には満足度調査のアンケートを行い、意見・要望を把握している。その結果を分析して、事業運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を随時、管理者が関わる中、毎月の職員会又は、提案事項が出された時点で話し合い、職員が納得した上で運営に関われるようにしている。	管理者は、毎月の職員会議で、意見や提案等を話し合っている。利用者の体力維持の工夫や、協同の作品づくりの内容などを話し合っている。それらは運営やサービスの改善に反映している。自己評価や外部部評価を検証し、次の取り組み(ステップアップ)に活かすことが検討課題となっている。	評価の項目の意義をよく理解し、職員全員で取り組み、ホーム運営に反映できるように期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めに各職員は目標、行動計画を作成する。目標を公表し、向上心を持って働けるよう配慮している。上記のように職員の意見が反映できる、環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任研修、法人内研修、介護研修、資格取得の奨励を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ部会やグループホーム部会を通じ、勉強会を行っている。相互訪問も行っている。積極的に取り組み、参加の奨励をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接の段階から少しでも利用者ご本人を理解する事で、不安の軽減に努めている。不安や要望には耳を傾け、少しでも安心して頂ける言葉がけを配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、不安に感じている事等、耳を傾け安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを基に情報を得て、初期ケアプランを作成し、少しでも早く生活に馴染めるよう、心がけている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の気持ちや不安を受け止め、本人が少しでも安心して暮らせる環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会や家族会、通院などは家族と一緒に考え、利用者のご家族との絆は、いつでも大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅の頃の友人・知人の面会等は心良く迎え、特養や地域行事等は積極的に参加して、馴染みの方との繋がりを大切にしている。	友人・知人の面会が多く、ゆっくり話し合えるように場面を提供し、再訪を促している。併設の特別養護老人ホームや地域の行事等にも参加し、地域の人達との絆を大切にしながら、関係づくりに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席を配慮したり、お話出来る様な雰囲気作り、歌を唄ったりして、利用者同士が関わりを持てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の病院や施設に移られた方への面会等心がけたり、ご家族からの相談に応じ次のサービスに繋げる支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月1回の茶話会をはじめ、利用者様の意見や希望意向は聞きながら支援している。聞き取りの困難な方は、ご家族に伺い、対応している。	毎月の茶話会を思いや意向を把握する機会としてとらえている。言葉だけでなく、表情・態度・動作にも注目し、思いを汲み取っている。一人ひとりの思いを受け入れながら、その人らしい暮らしに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前に本人やご家族に生活歴を伺い、これからのサービスに反映している。今までの生活の延長線になる事を大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の挨拶やバイタルチェックから始まり、体調を確認、表情やしぐさを含め、その方の小さな変化にいつも気を配っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族に本人の様子を随時伝え、それぞれの意見やご意向を伺い、ご意向に沿う介護計画を作成している。月末には1月を振り返ると共に、ケアプランに沿ったモニタリングもしている。	本人・家族・担当職員から要望・意見・気づきを聞き、毎月、評価・振り返りを行っている。日々のモニタリングを通して、計画の見直しに反映させ、その人らしい暮らしができるような介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録表に毎日様子を記録し、職員間で共有すると共に、毎月月末には評価・モニタリングを行い、介護計画の見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	高齢化に伴い、通院が難しくなった時、今までの係り付け医(主治医)の変更等を相談し、併設特養の主治医往診時に往診して頂ける事など紹介している。		

岐阜県 中津川市グループホームまごころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館の利用。公民館の活動等(文化祭・選挙)にも参加している。朗読サークル、ヨガは毎月、五感健康法は隔月開催していたしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を尊重して、かかりつけ医を選択し、連携している。	かかりつけ医は、本人家族の希望を優先している。協力医による月に2回の往診を受けている。また、専門医(精神科医)の往診も月に1回定期にある。通院介助は原則家族が行っているが、移動や移乗が困難な場合は、職員が支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養の看護師と連携をとり、相談や協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院と常に連絡をとりあい、治療や退院に向けての相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の介護や、終末期について医者や家族と相談し、備えている。	終末期・重度化の指針作りを進め、早い段階から家族や利用者や相談しているが、最期の看取りに医療行為や看護が必要になるとホームで対応が困難なため、併設施設や病院へ移ることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や、初期対応の訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	飲料水や非常食の確保はできている。災害時の避難訓練等は定期的に行い、毎年、地域消防団や地域住民施設関係者との合同訓練も行っている。	避難訓練は定期的に地域の消防団・地域の人達・隣りの特別養護老人ホームと共に行っている。消防職員からは、災害時の対応について、定期的に指導を受けている。自治区との防災協定を結んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、お一人お一人の尊厳あるケアに取り組んでいる。職員間の共有化に努め、同じ目線に立ったケアに努めている。	利用者と同じ目線で、日常のケアに努めている。特に、本人の気持ちを大切に言葉かけを行っている。一人ひとりの個別性に配慮し、誇りを傷つけないように徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動や言葉一つ一つをその方の強みと捉え対応している。服を選んでいただいたり、針やはさみの希望時は、一層の見守りに配慮している。又、2年目になる毎朝のラジオ体操は、朝だと認識される事が多くなった。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の行動一つ一つを強みと捉え、ペースに合わせた支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選んでいただいたり、お化粧をしたり、入浴後のヘアスタイルは本人の気にいるよう配慮し、クリームをつけ整える事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に台所に入って食事の支度をしたり、調理の味付けをお願いしたりしている。	利用者の意見や要望を、調理に取り入れている。食材の買い物、準備や味付けも一緒に行っている。行事の時は、家族会が主体となり、地方独自の五平もちや朴葉ずしを味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量にムラのある方には少しでも栄養のバランスに配慮し、水分量もこまめに摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	委員会に設け、口腔ケアを習慣付け、毎食後の一人一人の口腔状態を見ながら、ケアに努めている。		

岐阜県 中津川市グループホームまごころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	体力的に困難な方以外は習慣を大切にいただき、排泄パターンの把握や、以前からの習慣も大切にしている。トイレ誘導の声掛けや、トイレの利用及び、トイレ後の手洗いへの、声掛け、誘導に努めている。	個人の排泄パターンを把握し、習慣を知り、動作や行動で察知し、トイレへの声かけ・誘導を行っている。学習会で紙オムツの効果的な使用方法を学び、安全で快適な排泄支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の取り組みを常に行い、献立の工夫や水分量の見守り、体操やレクリエーション(運動)への誘いを多くしたり、トイレも少しでも歩いていただく工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の気持ちを優先して入浴している。服を選んでいただいたり、ヘアスタイルにも配慮している。	入浴の回数や時間は、希望に応じて柔軟に支援している。介護度の高い利用者が多く、安全に配慮し、介助者2人で対応している。拒否する利用者もなく、入浴は楽しみな時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前の安心して休んでいただけるお声掛け、枕や体位、衣類(靴下)、部屋の環境等、ゆっくり休んでいただけるよう、本人の身になった配慮を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明書は毎日目に届く所に整理され、理解するようにしている。新しい薬の記録も行い、服用後の変化も見るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物。自分の服を編む、繕う等、自分の好みを応援し、気分転換にも繋がる支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日に本人の希望する外出や家族との外出交流を行っている。その他にも、地域の方やボランティアの協力を得ながら行っている。	ホーム周辺を日常的に散歩している。隣りの特別養護老人ホームへは、自由に出かけている。地域行事や、アジサイやもみじまつり、ブドウ狩り、いちご狩り等の全員参加型の外出支援に、家族やボランティアの協力で取り組んでいる。	

岐阜県 中津川市グループホームまごころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で財布をお持ちの方もみえ、買い物時等は、所持金の金額だけは把握させていただき、自由に買い物を楽しませている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話で話をしたり、貰った手紙を繰り返し読まれたりしている。自ら返事が書けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々、季節感を味わっていただく工夫はしている。(風鈴、窓辺のアサガオ、縁側の鉢植え、居間、食堂の貼り絵等)他にもお雛様や七夕飾り等四季折々工夫している。	居間は広く、高い天井で開放的な空間である。鉢植えや貼り絵、七夕飾りなどで四季を感じている。また、玄関にある5体の仏像に、飯と水を供えて合掌し、安らぎの場となっている。畳のコーナーの掘り炬燵を、全員で囲み、談笑しながら、居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂などの席の位置を工夫している。外を眺める事の好きな方、テレビを見る事が好きな方等、居場所づくりに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた、好みのものを、置けるように配慮している。以前、臭いが気になるとの声をいただき、工夫して改善された。	自宅にあった、馴染みの家具や小物類を持ち込み、孫の写真や絵手紙などを飾っている。それぞれの利用者が落ち着けるように、家族と協力して部屋づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのタオル等は利用者が認識できるように工夫している。		